

男女共同参画・トリビアの泉

本橋令子・亀井綾子（理化学研究所・横浜）

男女共同参画について、簡単に分かりやすく理解してもらうために、人気クイズ番組“トリビアの泉”風に、シンポジウムのイントロダクションとした。

クイズ形式に男女共同参画に関係する問題を出し、参加者にあらかじめ渡した白と黒の旗を掲げてもらい、その回答を説明する形式で行った。

（スライド1）まず、女性研究者のキャリアアップの状況についての問題です。
研究者のうち女性教授の割合は何%でしょうか？

黒：約 13.6%

白：約 8.3%

ヒント：平成 14 年度の女性の博士進学率は 27.9%でした。

（スライド2）答えは、白：8.3%。女性研究員の割合は 10%。
博士課程に進学した 27.9%の女性の半分以上は研究者にならずにどこへ行ってしまったのか、とても疑問が残ります。

さらに、最近は大学キャンパス内で多くの女子学生を見かけるようになりましたが、それでも日本は 4 年生大学の女性の占める割合は 24 カ国中最下位でした。解決策として、日本学術会議は平成 12 年に、今後 10 年間に女性委員 10%に増やすという方針を打ち立て、国立大学協会も平成 12 年に、今後 10 年間に女性教官 20%増やすという計画を立てた。ちなみに、これらの計画が立てられた平成 12 年の女性教官の数は 8%であり、女性教官が一人もない大学の学部が多く存在した。

（スライド3）科学技術分野の女性研究者の事情と意識について調べた結果についての報告です。

男女問わず、研究生活と個人の生活を両立できるような環境を整備すべきだと考える人は 80%もいます。また、科学技術分野の研究者の職業意識には男女で差があると考えられる人は 10%で、ほとんどいません。しかし、実際には、採用 33.2%、昇進 29.4%、評価 17.3%、雑務の負担 22.1%において、多くの女性が性別による処遇格差を経験または見聞しています。

(スライド4) また、こんな面白い情報もあります。科学者のイメージについて、韓国と日本の若者に尋ねた結果です。

韓国では、科学者のイメージには若い女性、コンピューターと答える人が多いのに比べ、日本では、中年、おじさん、白衣、試験管と、かなり地味な印象に見られているようです。日本では科学者は男性の職業イメージが強いことの現れのような気がします。

(スライド5) 女性の活躍度(女性の経済、政治、専門職への参加状況)を示す GEM (ジェンダーエンパワーメント指数)は、66 カ国中日本は何位でしょうか？

黒：32 位

白：16 位

(スライド6) 答えは、黒：32 位。16 位はイギリスで、アメリカは10 位でした。GEM の上位の国は、1 位はノルウェー、2 位はアイスランド、3 位スウェーデン、4 位デンマークでした。生存、健康、教育、知識、生活水準等で測られる HDI (人間開発指数)は、日本は9 位であるが、女性の経済、政治、専門職への参加状況は、32 位と先進国中で低く、途上国より遅れているという結果です。

(スライド7) このように世界的に女性の活躍度の低い日本でも頑張っている女性はいます。上記の結果を見て、若い女性のみなさん、がっかりしないで下さい。

キリンの午後の紅茶の開発者は女性です。上司にこんなモノは売れない！と言われながらもピンに紅茶を詰めて販売し、爆発的なヒットとなりました。その後、彼女は会社からご褒美として、アメリカへ薬の研究留学を許可されました。

また、ファンケルのサプリメントの開発責任者も女性です。ファンケル中央研究所の部長主席研究員の辻さんという方です。頑張って、成功している女性もたくさんいます。

(スライド8) では、このように女性が仕事で頑張るには家事や育児の面で男性の協力が必要ですが、育児期の夫婦で男性の1日の育児に費やす時間はいったいどのくらいでしょうか？

黒：36 分

白：17 分

(スライド9) 答えは、白：17 分です。カナダ、イギリスが最も長く1時間半弱、

育児に男性も参加しているようです。

日本の 17 分という短い時間で、いったい何ができるのでしょうか？おむつを一回替えるぐらいでしょうか・・・こんなことでは、女性の家事、育児と仕事の両立は大変であり、女性の社会進出は遅れ、少子化問題にもつながります。政府は、少子化対策の中で重点的に取り組む内容は、出産、子育て後の再就職推進、育児休業制度、保育サービスの充実としていますが、まだまだ不十分な事がたくさんあります。

シンポジウムでは、上記のように、日本の科学技術分野での女性の活躍が難しい現状を理解してもらった後、このような厳しい状況の中で、研究を続けながら、出産、子育てを経験してきた女性研究者から話を聞くことによって、励まされ、抱えている問題の解決の糸口を見つけた人がたくさんいたと思います。

このような機会が多く設けられ、男女問わず、研究生活と個人の生活を両立できるような環境の整備が進むことを望みます。

最後に、余談ですが、このシンポジウムの主催者の一人であり私の恩師である大坪久子先生に連れられ、男女共同参画に関係している女性に多く会う機会がありました。大坪先生も含め彼女達に共通していることは、全ての事に対して前向きであり、明るく、一緒にいるだけで元気ができるような人であるということです。彼女達を見ていて、私は男女問わず、成功の秘訣はポジティブシンキングであり、幸せは自分の気持ちの持ち方次第だと思いました。我々若手も今の就職難の世の中に生まれたことを嘆く前に、まずは何か行動すべきなのかもしれません。若輩者の私にできることは、現在の状況説明しかできませんが、できるだけ多くの人に現状を知ってもらえば、解決の糸口も見つかると思っていて、また機会があれば参加したいと考えています。

以上